

国内初 自治体主導でのスマート畜産実証



8月28日、肝付町「スマート畜産」実装プロジェクトの記者会見が行われました。

本プロジェクトは、肝付町と株式会社ファームノートならびに株式会社NTTドコモ、ほか地域関係機関と協力支援体制を構築し、国内初となる自治体主導でのICTを活用した肉用牛生産者の労働力軽減と生産性向上を図る社会実験を実施するものです。

これまで肉用牛繁殖については目視による個体管理が行われてきました。しかし、今回のプロジェクトでは牛にファームノート製のセンサーを取り付けることで子牛生産に向けて重要な雌牛の発情発見や廃用ロス削減に向けた疾病疑いの検知など、スマートフォンによって遠隔ながらリアルタイムの個体管理が可能になります。これによって、農家の負担軽減のほか、繁殖率の向上・事故率低減、子牛出荷頭数の増加などの生産性の向上が期待されます。

実際にシステムを導入している新村祐太さん（本城下振興会）は「24時間状態が分かるので、見逃すことはほとんどなくなった。若手の生産者も多いのでみんなが使って町の経済効果アップに繋がればいい。」と語っていました。



南方地区避難タワーを使っての津波避難訓練を実施しました

8月25日、南海トラフ地震により震度6弱の揺れが起き、最終的に8メートル以上の大津波が襲来することを想定し、3月に完成した南方地区避難タワーを中心とした、内之浦地区津波避難訓練が実施されました。

午前9時に防災無線で緊急地震速報が流れ、それを聞いた住民は、南方地区避難タワー等、各振興会で定めた避難場所へ避難しました。この日訓練に参加した住民は243名で、内113名が避難タワーへ避難しました。

避難訓練の後、大隅肝属消防組合内之浦分署員と役場防災管理監による防災研修が開催され、要配慮者等の搬送方法や南方地区避難タワーに設置されている防災備蓄品等の使い方説明などが行われ、住民の防災意識向上が高まりました。

